

豊川市花の木古墳群で特殊な武器、「蛇行剣」が愛知県で初めて出土

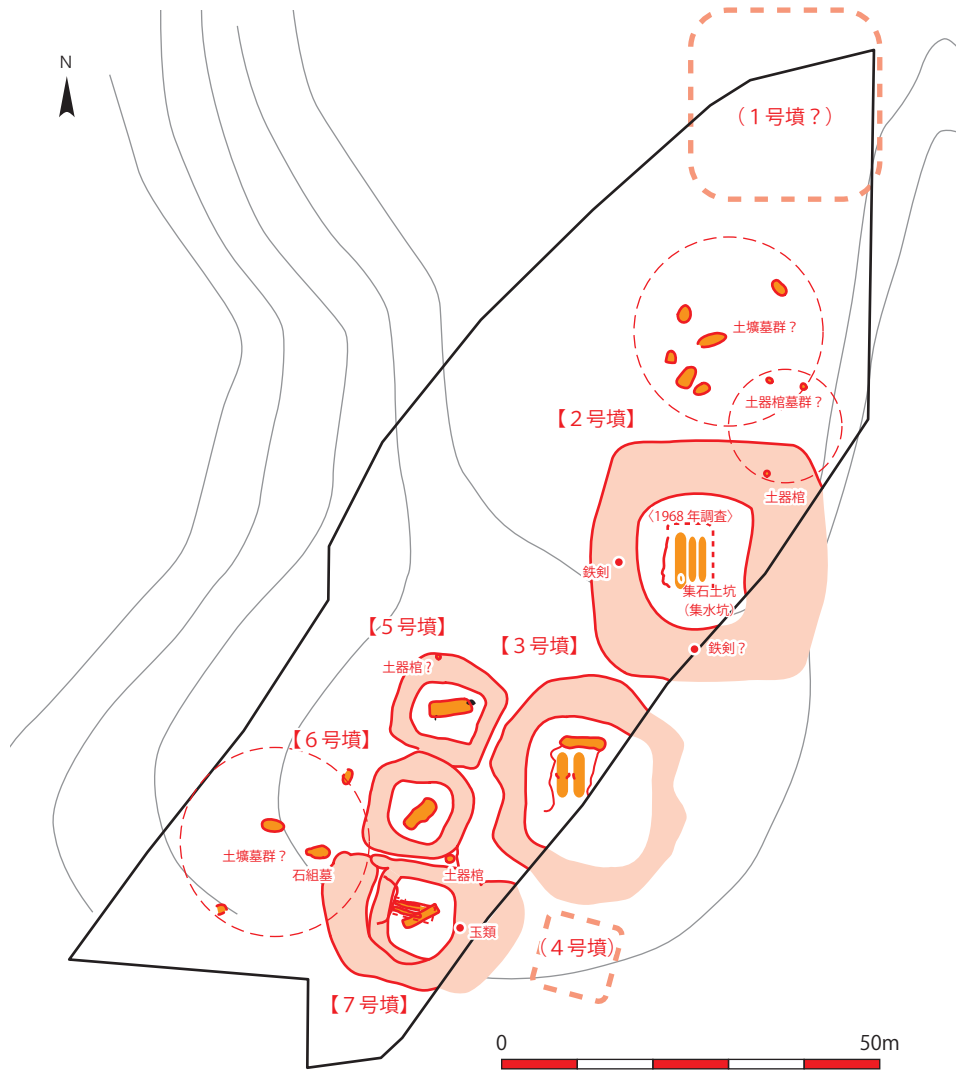
花の木古墳群の概要

花の木古墳群は豊川市大木町に所在する。愛知県埋蔵文化財センターは、一般国道151号一宮バイパスに伴う事前調査として、令和2年度に群中の5基の古墳の発掘調査を実施した。

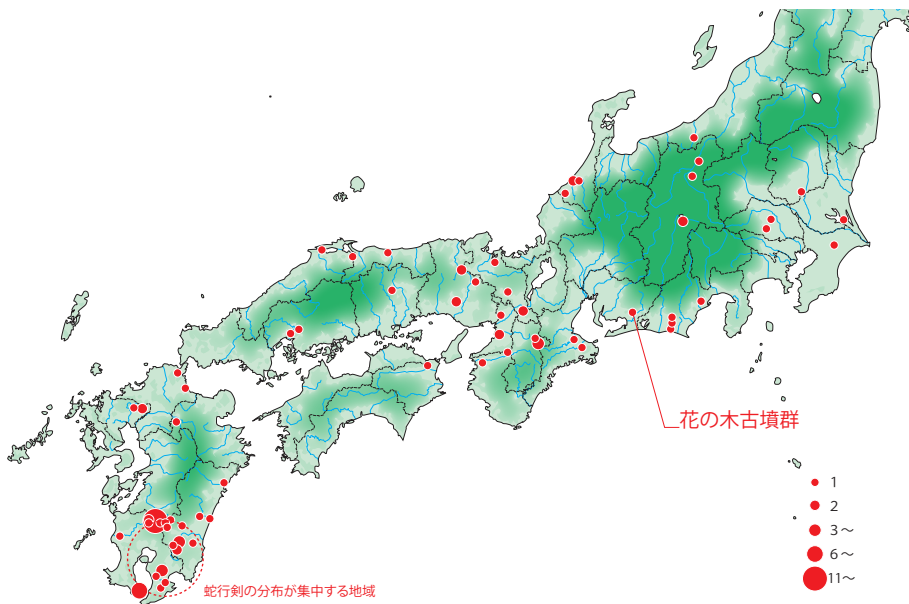
発掘調査の結果、5基の古墳はいずれも10mから20m程度の方墳で木棺を直葬すること、古墳時代前期後半から中期前半、4世紀前葉から5世紀前葉にかけて築造されたことが判明した。

蛇行剣の概要

蛇行剣は剣身が蛇行するように屈曲する特殊な武器で、古墳時代中期から後期の古墳（墳墓）に副葬される。日本列島では現在、約70の古墳（群）や墳墓（群）に副葬された約100点が知られ、その半数近くは南九州（宮崎県・鹿児島県）に分布する。愛知県では初めての出土である。長さは64.5cmで、蛇行剣では長い部類に入る。



花の木古墳群全体図(1:1000)

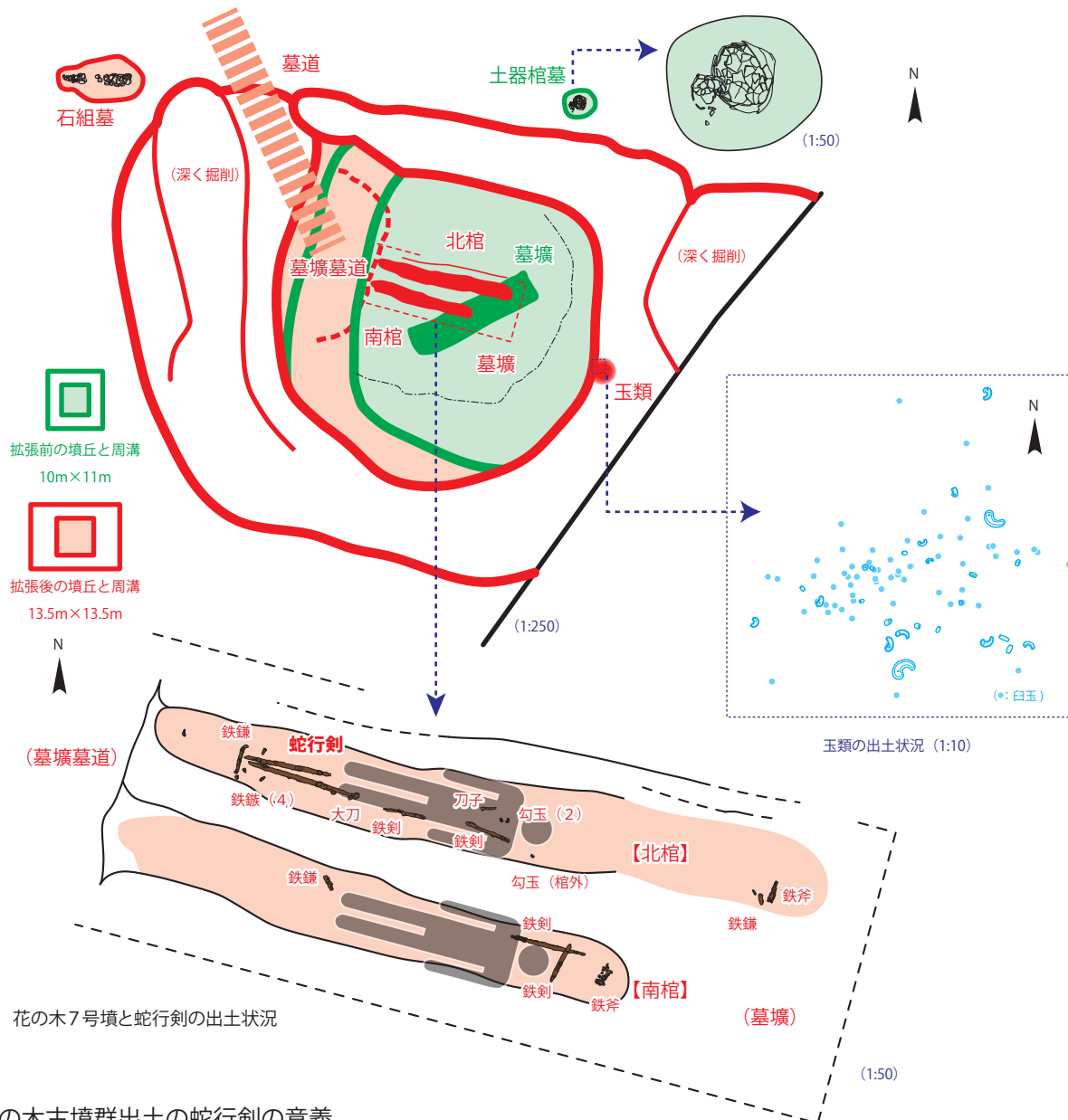


蛇行剣の分布



花の木古墳群の蛇行剣
(右側の長身の鉄製品)

花の木古墳群の蛇行剣は群中の南端に分布する7号墳の埋葬施設に副葬されていた。7号墳は古墳時代前期後半の一辺11mの方墳が中期前半に一辺13.5mの方墳に拡張され、拡張後に埋葬施設として2基の木棺を直葬する。蛇行剣が副葬されていたのは拡張後に設置された北側の木棺で、被葬者の足元側と想定される位置に切先を西側に向けて置かれていた。北側の木棺には他に武器類として大刀、鉄剣、鉄鏃、農具類として鉄斧、鉄鎌、刀子といった豊富な鉄製品群に加えて、装身具として勾玉（翡翠製・瑪瑙製）が副葬されていた。なお、7号墳の東側の墳丘斜面では玉類が100点以上出土している（勾玉14点、棗玉11点、管玉1点、白玉約80点。管玉のみ綠色凝灰岩製、その他は滑石製）。（拡張後の）7号墳、蛇行剣の時期は共伴する副葬品、墳丘斜面出土の玉類から古墳時代中期前半、5世紀前葉と考えられ、東日本では静岡県袋井市五ヶ山B2号墳の蛇行鉞と並んで最も古い。



花の木古墳群出土の蛇行剣の意義

蛇行剣を副葬する古墳は、同時に鉄製武器、農具等を豊富に副葬することが多く、花の木古墳群を含む当地域は古墳時代中期前半という比較的早い段階に、特殊な武器を含めた各種鉄製品の流通網に深く関わっていたことが推察される。

特殊な武器である蛇行剣の副葬、また、墳丘周辺における多数の玉類の出土は、花の木古墳群が畿内を含む各地の有力な古墳と共通する葬送儀礼を受容していたことを示す。一方、花の木古墳群が中小の方墳や土器棺墓等の古墳以外の墳墓で構成されることは、古墳群が地方の集団の伝統に根ざしていた部分が大きかったとも考えられる。つまり、古墳文化が地方の伝統を温存しながら各地に浸透していった状況が読み取れることも重要である。